

平成21年7月9日
自然環境局野生生物課

トキの野生復帰に関する取組の概要

1. 経緯

- ・ 昭和56年：最後の野生のトキ5羽を佐渡島において全て捕獲、人工繁殖に本格着手
- ・ 平成11年：中国から贈呈された友友・洋洋の間に優優が誕生
- ・ 平成12年：優優のパートナーとして美美が中国より到着
- ・ 平成15年：日本の野生生まれ最後のトキ「キン」死亡
- ・ 平成15年：トキと共生できる地域づくりのための「環境再生ビジョン」策定
→平成27年頃に小佐渡東部地域に60羽のトキを定着させるとの目標が定められる
- ・ 平成16年：種の保存法に基づきトキ保護増殖事業計画を改訂
(農林水産省、国土交通省、環境省)。
→かつてのトキの生息地である小佐渡東部を中心とする地域において飼育個体を再導入することにより、トキの野生個体群の回復を図ることや、飼育個体の分散が位置づけられる。
- ・ 平成19年：中国から華陽、溢水が到着
- ・ 平成20年：10羽のトキを野生下に放鳥(9月25日)
→うち、オス1羽は放鳥直後より不明。メス1羽は12月14日に死亡を確認、メス1羽は3月18日に新潟県胎内市で確認後不明。
残るオス4羽は佐渡島、メス3羽は本州(糸魚川市、黒部市、新潟市)で確認(7/6現在)。
- ・ 平成21年7月6日現在 飼育下で計153羽(110羽+ヒナ43羽)。

2. 第2回放鳥について

(時期) 9月27～30日

(場所) 野生復帰ステーション近傍の佐渡市造成ビオトープ

(方法) 仮設ケージで4週間程度飼育した後に放鳥する「ソフトリリース」とする。

(放鳥個体) 現在、18羽が野生復帰ステーション順化ケージで訓練中。

これに加え、4～5歳の個体またはやや神経質な個体を数羽追加することについて、今後検討予定。